



よこはま プロバス通信

No33 2022年2月発行

<http://yokohama1probus.web.fc2.com/TR3.html>

ユーチューブチャンネル purobusyokohama

情報委員会・編集委員

発行所:事務局内

横浜市金沢区並木3-3-10-204

松下方 045-784-6549

新春のご挨拶

会長 加藤道子

一昨年、昨年とコロナ禍が続いてきましたが、その中でやっと10月から例会を再開しクリスマス例会、新春例会も行うことができ良かったと思います。それでも、またオミクロン株の蔓延で厳しい日々が再来しております。先行きが見えない状況ですが、皆様のご協力で創立20周年記念誌は近く発行の予定です。また4月には何とか計画中の20周年記念の移動例会が実現できればと思っております。



加藤道子会長

私は毎月の例会に出席するのが楽しく、お話を聞くのが大好きです。当会のスローガン「楽しくなければプロバスではない」を基に、これからもコロナに負けずに、感染防止に注意してプロバス活動も継続し、皆様と共に楽しく元気に日々過ごしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

■青木伊平会員の思い出（加藤道子令和3年11月記）

突然の、青木伊平様の訃報にビックリしました。横濱プロバス倶楽部のドンでした。

ご自身の病いを抑して、気分の良い時は例会・理事会に出席してくれました。また、ご自身の病の体験話をしてくれました。横濱プロバス倶楽部の慰安旅行の時、バス旅行、一泊旅行の時などは、場を盛り上げて、透き通る響きの声で、カラオケをしていたことを思い出しました。

また愛妻家で、奥様のお話をする時は、「うちのちゃこちゃんです」と呼んで「奥様久子様です」とお話してくれたこと。話が終わるとニコニコと、とても幸せな笑みのお顔をしていました。

奥様 久子様は、葬儀の際、「主人は横濱プロバス倶楽部が大好きで、いつも話が横濱プロバスのことでしたので、クラブのジャンパーを棺に入れてあげました」とお話されていました。

全日本プロバス協議会理事をされ、交流会を作り各地に行って活動をしてくださいましたね。

「楽しくなければプロバスではない」。この

言葉通り、青木さんの尽力もあって2011年4月8日には、当倶楽部の創立10周年記念式典（重慶飯店別館）が盛大に行われ、また、2018（平成30）年11月28日には全日本協議会の第8回総会が、三重県四日市市の都ホテルで開催されました。

7月に亡くなられた中村元会長とともに、10月逝去の青木元会長のお二人に心より感謝いたします。

■青木伊平氏と歩んだ6年間（森山功全日本顧問）

全日本プロバス協議会会長に加藤武氏が就任した時、乞われて理事に就任された。以来6年間北九州プロバスクラブにバトンタッチし理事に岩城孝子氏を推薦しその任務を終えるまで献身的に精力的に活動されました。歯に衣を着せぬ率直な意見に多くの方から賞賛の言葉を頂きました。全国のプロバスクラブに足を運ばれ、意見を交換され「改革なければ生き残れない」「楽しくなければプロバスではない」「ガン8回人生満開」と人生を語り時には“女と酒は2号まで”“私の愛妻2号さん”と奥様のことをこよなく愛されていました。実体験に裏打ちされたトークに多くの方が魅了され、人生相談のようなこともありました。口癖は「旅費などもらったらだめだよ、行きたいから行くってことが肝心だ」「お金は使うものでもらうものではない、もらえば乞食でおしまいよ」「お金は貸しても（あげても）借りては（友達）だめよ」など蘊蓄のある教養を頂いた。思えばこの6年間徹底的に人生の歩み方を教えて頂いたように思い感謝以外にありません。



コロナ禍の中、加藤道子会長を中心に有志が代表して参加した

—横浜プロバスの育ての親に心から感謝して—
 横浜プロバス倶楽部 松原孝明

青木伊平さん、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。併せて、青木さんとの思い出を書かせていただき、追悼とさせていただきます。

2021年10月1日に青木さん（享年86歳）がお亡くなりになったという、奥様からの悲しい知らせを受け、惜別の念を禁じ得ませんでした。

故青木さんは元横浜プロバスの会長であり、全日本プロバス協議会第三代会長であった故加藤武さんの右腕となって大いに活躍されました。また、「改革なくして生き残れない」との信念で、全日本プロバス協議会理事在任中の6年間全国をくまなく歩かれました。

「楽しくなければプロバスではない」との当プロバスの標語も青木さんが発案されました。

故人がわれわれに残して下さった大いなる遺産は、横浜プロバスだけでなく、全国のプロバスで花ひらき、そのご功績に深甚なる敬意を表し、心からご冥福をお祈り致します。

故人の色々な伝説や、興味深いエピソードは関係者から、また、ご自身の口から伺っておりますが、ここでは、私にとって印象に残る2つのことを述べて、青木さんを偲びたいと思います。

一つは、青木さんのお人柄です。故人はご存知のとおり、誠実温厚の上、人の面倒見がよく、心優しい、人一倍気配りをする人でした。また、誰にでも気さくに声をかけるなど、その友好関係は全国に幅広く、多くの人脈を築かれました。

故人はどうして、このような敬愛すべきお人柄になられたのか？

敢えて、諸先輩のご批判を恐れず、私が感じたままを申し上げれば、故人は、常に希望を持ちながらも艱難辛苦そのもののご一生であられたからだと思います。

これまでの人生で、世界中を駆け巡るだけでなく、色々な経験を積み、様々な職業遍歴の末、内助の功を得て、ご自身の事業に成功されました。その上、がんとの凄まじい闘病生活（8回に及ぶがんの手術）など、人一倍苦労し、その豊富な人生経験の中から、醸し出されたお人柄だと思います。

詩人の大岡信さんが、京都で、ある染色家から桜色に染まった、草木染めの着物を見せてもらった時、「その色は淡いようで、しかも燃えるような強さを内に秘め、華やかで、しかも落ち着いた色」と、「桜の色」について、詩人の目で表現しております。

実は、この何とも美しい得も言われぬ色は、桜の花ではなく、あの黒いゴツゴツした皮を煮詰めて、しかも長い冬を過ごした木でなければ取り出せないそうです。

故人のお人柄は、まさに晴れやかな「桜の花」からではなく、黒いゴツゴツした皮を煮詰め、長い冬を過ごした人生であったからこそ、深い味わいになったもののご推察申し上げます。

もう一つは、先にも申しましたが、弔問の際に、今にも起き上がりそうな優しい微笑をたたえ、悠々とした安らかなお顔を拝見し、私は、その場で思はずお題目を唱えました。そのことは、奥様も感じておられたと思います。

2020年2月29日に、青木さんは、日蓮大聖人の仏法と出会いました。

その時に、お祝いに駆けつけた10数人の前で、お礼の挨拶をされました。

「自分は長い間生きてきて、人生で2度だけ泣きました。

一度は、悲しみの涙です。娘を亡くした時です。そして、2度目は喜びの涙です。本日はかねてからの念願であったこの仏法に巡り会えたからです。皆さん！本当にありがとうございました」と、仰っておりました。それ以来、故人は毎日勤行を励行されておりました。（3面に続く）



故加藤武会長に乞われて横浜プロバス倶楽部の役員に（2列目中央）。弁慶で懇親会の青木伊平さん（左上）

<10月例会> (第231回)

2021年10月8日(金)横浜YBS南幸ビルで新役員による初の例会が開催されました(21名参加)。加藤道子新会長の挨拶の後、会長から改めて新役員の紹介がありました。

副会長; 内山昌俊 幹事; 神谷恒夫

例会委員長; 大久保武 会員委員長; 鈴木国彦

情報委員長; 関口尚親(欠席 代行荻原)

参遊会委員長; 宮川清彦

会計・理事; 松下尚雄

会計監査; 平野正弘(欠席); 岡部正久

初めに、中村元会長、青木元会長両氏のご冥福を祈って黙祷を行いました。

次に新入会員前田克実さんの紹介、挨拶がありました。続いて誕生月会員、佐藤政男、大久保武、樋口健太郎、内山昌俊、持田久次の5氏に加藤会長からお祝いが贈呈されました。

10月の会務報告(理事会協議及び決定事項)及び委員会報告は次の通りです。・20周年記念誌は1月目途に発行する。・長寿祝(米寿88歳、卒寿90歳)を新設し、来年1月から遡及して実施。・プロバス通信32号を例会時発行(中村實氏追悼特集)。・通信33号は2月に発行予定・全日本プロバス協議会; 総会(2020年)は1年延期後中止になった。2022年総会は八王子プロバスが主催する。

その後、森山全日本顧問から10月1日に亡くなった青木伊平氏を偲び追悼の言葉がありました。

また、松原会員から「故人は立派な姿で亡くなら

れました」との弔問報告がありました。

事務局からの報告は次の通りです。

・故青木元会長告別式(10月9日)には、加藤会長が会を代表して参列する。

・県下6クラブ協議会連絡会(鎌倉プロバス担当)は2022年6月に開催することとなった。

10月の歌「赤とんぼ」を合唱し、最後に1年ぶりの例会につき、全員の集合写真を撮影して閉会しました。

<11月例会> (第232回)

2021年11月12日(金)12時から横浜YBS南幸ビルで再開2回目の例会が開催されました(23名参加)。加藤道子会長から久しぶりの参加会員に会えてうれしいとの挨拶があり、開会に先立ち名誉会員加藤義一氏(第4代会長、9月18日逝去、98歳)のご冥福を祈って黙とうを行いました(司会は、神谷幹事欠席のため、持田前幹事が代行)。

11月は、ビジター、新入会員はありませんでした。

続いて誕生月会員、富永和男、森山功、松原孝明、加藤道子の各氏4名(神谷会員欠席)並びに前月までの5名、平野正弘、D,T,山田、豆生田信一、小西観裕、保谷英雄の各氏に加藤会長からお祝いが贈呈されました。

*11月の会務報告(理事会協議及び決定事項)及び委員会報告は次の通りです。

・20周年記念行事は中止したが、記念誌は1月目途に発行する。・12月はクリスマス例会を実施する<詳細は事務局から>(4面に続く)

(2面より)

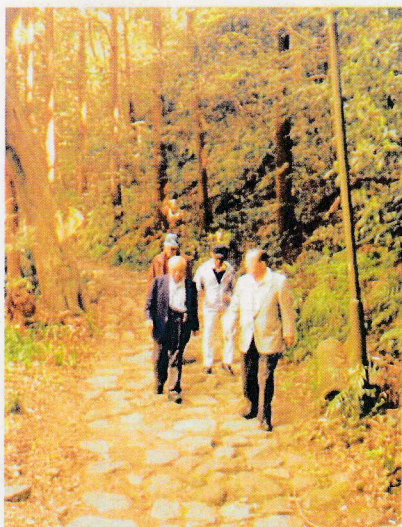
仏典には、次のようにあります。

「人は臨終の時、地獄に墮つる者は黒色となる上、其の身重き事千引(ちびき)の石(いわ)の如し。善人は設ひ(たとへ)七尺八尺の女人なれども色黒き者な

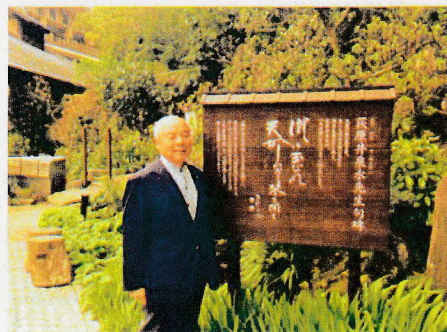
れども、臨終に色変じて白色となる。又軽き事鷲毛(がもう)の如し、軟(やわ)らかなる事兜羅綿(とろめん)の如し」と。

レオナルド・ダ・ヴィンチは言いました。

「遺憾(いかん)なく過ごした一日は、楽しい眠りを



熊野古道の散策や歴史探索で人生を楽しまれた



た言葉だと思います。

私の恩師池田大作先生も、「素晴らしい夕日は素晴らしい明日を約束する。西空を黄金に染めて沈む夕日は明日の晴天を約束する。同じように今世のあんじょうの死は、永遠の幸福を約束する」と、述べております。

最後に、「つらくとも 永遠の命の旅なれば 仏に祈りて 涙 笑顔に」との一首を故人並びにご遺族に捧げ、追悼の辞とさせていただきます。

もたらす。それと同じく善(よ)く用いられた一生は、安らかな死を与える」と。死後の意味をよくいい表わし

（3面から）

＊各委員会からの報告は次の通りです。

例会委員会から；4月移動例会について事務局から報告する。・情報委員会から；関口委員長欠席につき荻原が代行。プロバス通信の次号は2月に発行する。また、20周年記念誌は年明け1月以降に発行するが、各会員に一言書いて頂くので協力をお願いします。

＊全日本プロバス協議会の報告

全日本の総会は、2022年11月24日（木）13時から京王プラザ八王子で、八王子プロバス主催で開催される。（会費1万円）。

＊内山副会長から報告；今年度副委員長（次期委員長候補）が決まり、報告がありました。

例会副委員長；倉嶋康会員、会員副委員長；倉嶋伸会員、情報副委員長；荻原会員、参遊会副委員長；松原会員、監査；D・T山田会員、事務局長；松下会員（継続）副幹事；神谷幹事が兼務（幹事継続）

＊事務局からの報告は次の通りです。

・山手RCのクリスマス例会が12月8日（水）18時からホテルニューグランドで開催される（会費2万円）。・山手RC大場元会長が9月に逝去された（91歳）葬儀は終了している。・加藤義一元会長の訃報が遺族からあり（例会冒頭に黙とう）、加藤会長名の仏前ご供物を遺族に送付した。・12月クリスマス例会について12月10日（金）12時 会費5千円（2千円は会から補助）。加藤豊会員紹介のハーモニカ演奏がある。プレゼント交換をするので千円程度のプレゼントを各自持参する。・4月一泊移動例会について；次週の11月理事会で金沢能登方面等の案を検討する。30人参加で5万円以上かかるので会からの補助を検討する。

＊同好会活動の報告

11月のゴルフ同好会とボウリング同好会の開催日程と英会話勉強会の再開予定が報告された。その他は未定となっている。

〔ゴルフ同好会2021年の反省〕

2021年はコロナ禍の中、思う様に活動出来ませんでしたがコロナに負けぬ様老骨に鞭を打って3回程、開催しました。6月開催優勝者保谷氏、9月開催優勝者神谷氏、11月開催優勝者荻原氏と見事に3人の方々が優勝されました。11月の開催時は、関口氏、神谷氏が体調崩し参加出来なかったことは残念ですが、Withコロナの時代、これから体調管理に努め、ゴルフを楽しむ為、同好会を盛り上げたいと思いますので協力の程、お願いします。（加藤豊会員）

＊閉会；月の歌「里の秋」を全員で合唱して閉会しました。

<12月例会>（第233回）

2021年12月10日（金）12時から横浜YBS南幸ビルで12月クリスマス例会が開催されました（26名参加）。冒頭に加藤道子会長から山手ロータリークラブからの寄付へのお礼挨拶がありました。司会は神谷幹事欠席のため、加藤豊幹事代りが担当しました。

今月は、山手ロータリークラブから3名のゲストがあり、加藤会長から紹介がありました。中西剛会長、平賀泉氏、中込清美氏を代表して中西会長から挨拶があり、山手RCクリスマス会への当会会員参加お礼ならびに、大場元会長、中村元会長が



令和3年最後の12月例会。笑顔、笑顔の記念撮影

亡くなり、時代が変わってきたと感じるとのお話がありました。次に加藤道子会長から、12月誕生月の加藤豊、岡部正久、荻原信吾各氏3名と7月生まれの東野操氏にお祝いが贈呈されました。

＊12月の会務報告（理事会協議及び決定事項）及び委員会報告は次の通りです。

20周年記念誌は来年早々に発行する。2022年4月、20周年記念1泊移動例会（金沢能登方面）開催が決定した。参加費は半額を会から補助する。

＊各委員会からの報告は次の通りです。

例会委員会から；4月移動例会の詳細について事務局から報告する。情報委員会から；関口委員長欠席につき荻原が代行。20周年記念誌は年明け発行の準備中だが、各会員に記念誌に登載する「自己紹介記事」の作成を依頼した。

＊全日本プロバス協議会の報告

全日本の総会は、11月にお知らせの通りです。

＊事務局からの報告は次の通りです。

・4月一泊移動例会について；4/21（木）～4/22（金）に実施。金沢能登方面で、往復新幹線利用。金沢から貸し切りバス利用。6万円程度かかる。各自負担3万円で、残りは会で補助する。多摩PCが同行参加を希望している。（5面に続く）

（4面より）

＊同好会活動の報告

・ゴルフ同好会；11月大秦野CCで開催済。次回は3月28日（月）予定。・ボウリング同好会；11月実施済。12月も実施予定。・英会話勉強会；再開する。その他は未定となっている。
＊閉会；月の歌「ジングルベル」を全員で合唱して閉会（大久保例会委員長）

【クリスマス懇親会】

引き続き、平野会員の司会でクリスマス会を開催し、岩城会員から、「亡くなった中村会長や青木会員も近くで見守っていらっしゃると思う」との開催の挨拶がありました。

乾杯の音頭を森山会員が行い、加藤豊会員紹介の「寒川ハーブエコース」のハーモニカ演奏が次の5名により盛大に実施されました。

（伊藤みどり氏、杉山えい子氏、新保ちよみ氏、亀山みち子氏、川波つやか氏）

演目は全9曲で、最後は「星影のワルツ」を全員で合唱してプレゼント交換に移りました。

岡部会員、小西会員はじめ会員の皆様から豪華なお酒等の寄贈を頂き、大いに盛り上がりしました。最後にD、T山田会員の閉会の言葉でお開きとなりました。

<1月新春例会>（第234回）

2022年1月14日（金）12時から横浜YBS南幸ビルで1月新春例会が開催されました（29名参加）。冒頭に加藤道子会長から新年の挨拶と山手ロータリー



新春特別寄席

とお祝い贈呈が行われました。

（米寿；倉嶋康会員89歳、卒寿；D.T山田会員90歳、鈴木国彦会員91歳2名は米寿含む）。

＊1月の会務報告（理事会協議及び決定事項）及び委員会報告は次の通りです。

①新春例会・懇親会参加費は3千円、不足分は会の負担とする。4月、20周年記念1泊移動例会（金沢能登方面）参加者を本日確認する。

＊各委員会からの報告は次の通りです。

例会委員会から；4月移動例会の詳細について事務局から報告する。

情報委員会から；関口委員長から1年ぶりの挨拶。荻原副委員長から、20周年記念誌に登載する「自己紹介記事」未提出者へ再度作成依頼した。

＊全日本プロバス協議会の報告；報告事項なし

＊事務局からの報告

・4月一泊移動例会について；4/21（木）～4/22（金）金沢能登方面。30名参加で6万円程度かかる。各自負担3万円で、残りは会で補助する。出欠の確認をし、5名欠席申し出、この他に2名不参加。多摩PCが同行参加を希望（20名限度）。

＊同好会活動の報告

・ゴルフ同好会；次回は3月28日（月）予定。

・ボウリング同好会；コロナ状況から開催中止

・英会話勉強会；再開（日程未定）する。

＊閉会；月の歌「一月一日（年の初めのためしとて）」を全員で合唱し閉会（大久保例会委員長）

【新春懇親会】

引き続き、平野会員の司会で新春懇親会を開催。森山会員が挨拶と乾杯音頭を行った。

最初に、新春特別寄席（落語）が参遊亭遊助氏（豆生田会員）により披露され（演題；初天神）大変好評でアンコールも行われた。

【懇親会での挨拶】

・山手RC；山手にも落語に来てほしい（中西会長）。20年前に、横濱PC創設の支援をした（平賀氏）。寄席好きで月1回は行く。本日の落語はとて良かった（小林氏）。

・会員の一言スピーチ（誕生祝会員、米寿、卒祝い会員挨拶含む）全員から挨拶を頂きました。岡部会員、小西会員はじめ会員の皆様から豪華なお酒等の寄贈を頂き、大いに盛り上がりしました。最後に大久保例会委員長の閉会の言葉でお開きとなりました。



新春例会で集いあった元気いっぱいの会員（2022/1/14）

クラブからのゲスト4名の紹介がありました（中西剛会長、平賀泉氏、中込清美氏、小林氏）。挨拶は懇親会で実施。

次に加藤道子会長から、1月誕生月の4名倉嶋康、倉嶋伸、丹野弓子、松下尚雄の各氏（1名欠席）にお祝いが贈呈されました。引き続き長寿会員紹介

ヒマラヤで凧は揚がるか

会員 倉嶋康(凧師号:香糸)

「お正月には凧揚げで 独楽を回して 遊びましょ」と童謡に歌われる凧。角凧、奴凧、飛行機凧といろいろありますが、皆さんは日本でいつごろから親しまれた玩具だと思われますか。文献によりますと意外に新しく江戸時代初期に中国から渡って来たのだそうです。それもオモチャなんかではありません。ちゃんとした武器としてなのです。

「えっ、武器?じゃあ凧から敵兵に大石でも落としたのかな」。冗談じゃありません。そんな重い物を吊るしたら凧は空に揚がりません。それこそ飛んでも無い話です。

正解は戦場で弓や大弓を使う時に、敵陣までの距離を測ったり、風力や風速を確かめるために使ったそうです。もっとすごい使い方は、敵城に攻め込む時に凧を揚げて、糸を城壁のどこかの棒にからめます。この細い糸に次々と太くした綱をつないでいって、ついには兵士がそれを伝って城壁を乗り越えたそうです。

なあんだ、昔話かと言わないで下さい。現代でも立派に武器として使用された記録があります。第2次世界大戦でアメリカ軍を悩ませたのが日本の誇る戦闘機「ゼロ戦」でした。そのスピードと急上昇性、回転性が素晴らしくて、米軍は地上からも艦上からもどうしても撃ち落とせませんでした。

そこで凧を作ったのです。三角形でクルクル回りながらグングン上がって行くナイロン製の凧を。上へ下へと舞う凧を狙って機銃掃射の訓練を積み重ねました。この凧、今ではゲイラカイトと呼ばれて、あちこちで揚げられています。ところでよその国ではアメリカでも中国でも年がら年中凧揚げをしていますが、どうして日本ではお正月だけなのでしょう。これにも理由があるのです。悲しい歴史があるのです。かつては日本でも庶民の遊びとしてしょっちゅう凧揚げが出来ました。特に野原や畑が多かったので、子供たちは凧糸を引いて思う存分走り回ることが出来ました。

ところが思いがけないことが発生したのです。凧の糸がお待さんにからみつことがあって、糸は切り捨てられます。もっとひどい時は袷で威儀を正して供を引き連れ、馬で登城する武士が糸に引っ張られて落馬することまで起きました。

当時の事です。「無礼者めっ!」と手討ちにされても文句を言えません。こうした不祥事が度重なったため、遂に幕府が御触れを出して凧揚げは正月三が日に限るとなってしまったのです。

さて、この凧揚げが好きな大人のグループは白



根、浜松、相模原など国内にたくさんあります。その中でも一風変わっているのが「飛天隊」という全国組織です。隊員は大人の男女が、最も多い時には100人ほどもいました。女性も数多くいるのは、凧揚げをする場所がすべて外国だったからです。しかも普通の観光旅行では行かない珍しい土地ばかり。1987年に誕生して30カ国に海外遠征をしました。

今回はそのうちからネパールに遠征してヒマラヤを一望しながら和凧を揚げた豪快な話を連載いたします。

(写真:ノルウェーのオスロー港では長野冬季オリンピックの凧を揚げました)

※くらしまやすし

1933年長野県生まれ 早稲田大学政経学部卒 毎日新聞社記者として活躍 松川事件で大スクープ被告20人全員無罪に、一貫したジャーナリスト魂の持ち主。日本記者クラブ会員、冒険家としてまた社会活動家として今なお第一線で活躍中。

編集後記



・今号には、10月から再開した4か月分の例会報告を久々に掲載しました。新年になってコロナの先行きがまた不分明になっていますが、4か月毎のプロバス通信は必ず発行して会員の皆様に情報発信していきます。今回発行の20周年記念誌も、定例発行のHP並びにプロバス通信の情報を基に作成しています。・また今号は10月1日に亡くなった青木伊平元会長の追悼特集になっています。故青木伊平氏の

多くの遺産を受け継いで、これからも楽しいプロバス活動を行っていきたいと思います。

(荻原情報委員長補佐)

・このコロナ禍大変な時期に発行できたことを喜ばしく思っ

ております。ただ私、関口は情報委員長を昨年6月に

受けて9月に体調を崩し現在に至っています。・幸いにも情報委員長補佐の荻原会員と森山会員がいた為、滞りなく発行できたことを感謝しホットしています。

(関口情報委員長)

